

小中学校の給食費無償化の実現を



中河 つる子 議員

教育長 他自治体での取り組みを参考に、
本町の支援方法を研究していきたい

問

長引いたコロナ禍、不況、買い物に行くたびに値上げになつている食料品、子育てしている世帯への経済的負担は大きい。

また、最近の本町の出生数の少なさも危惧している。

給食費の無償化は全国、道内では保護者負担を全額補助している市町村が増え、国内では令和4年度は254市町村に、道内は40市町村に、十勝管内でも、浦幌町、足寄町、陸別町、鹿追町、今年から士幌町が実施している。

本町は、今年度、給食費負担軽減事業として、751万円の予算拡充を行い、物価高騰による影響を町費負担し、地元食料を多用した給食を実施することとした。この政策は歓迎する。

だが、毎月の給食費の無償化は、保護者の経済的負担の軽減、少子化対

策、定住、転入の促進につながることを期待されることから、本町でも導入するべきと考える。
(一)食育、子育て支援、保護者の経済的負担の軽減、少子化対策、定住・転入の促進等の観点から、小中学校の給食費を無償化する考えはないか伺う。

教育長

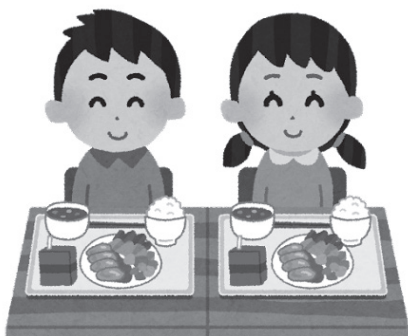
本町の学校給食に関わる考え方は、安心・安全な食料の利用と、地元を中心とした十勝・道内の食料を可能な限り利用することで、子どもたちへの食への関心を高める食育に取り組んでいる。質問の保護者へ負担軽減等の対応は、少子化や定住、移住促進につながる方策になる一つのものと考えられている。

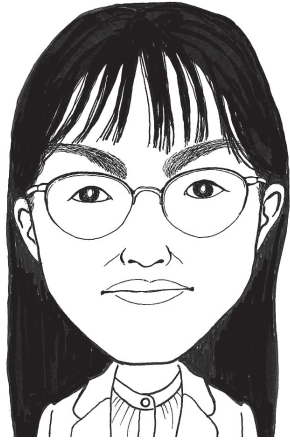
清水町では令和5年度一般会計で、物価高騰に

係る給食費の抑制策として材料費分を追加した予算を計上している。

また、給食費については、平成21年度の見直しを最後に現在まで10年以上、値上げを実施せず保護者負担の軽減ということで保護者から徴収する負担金を据え置いている。

今後、ほかの自治体での取り組みを参考に、国の動向を見極めながら清水町としての支援方法などについてを研究していきたいと考えている。





山本 奈央 議員

未来をつくる子どもの幸せな町とは

安全に過ごせる環境整備に努め、
町長 都市計画マスタープランのアンケートを参考
的に計画的に事業を進めていく

問 (1) 清水児童クラブの老朽化や施設が手狭であるとの声を聞くが、清水児童クラブの利用人数に対して施設の広さは適切か。清水児童クラブの建物の老朽化対策、耐震診断の実施の有無と今後の方針を伺う。

町長 (1) 清水児童クラブは、旧児童館と小学校の余剰教室の2力所で、児童クラブ、放課後教室、バス待ち児童の預かりの3事業を行っている。旧児童館は昭和56年4月運用開始。エアコン設置や故障箇所修繕で環境整備をしている。老朽化や手狭との声はあるが施設の建て替え予定は無く、耐震診断が義務化された建築物ではないため診断は行っておらず予定もない。3事業を整理し今後にも安全に過ごせる環境づくりの整理を進める。

問 (2) 町の屋内施設は、現在子どもの為だけの施設は無い為、運営において子ども達の意見を集めた事は無い。文化センター・改善センターのロビーは町民が自由に使える場として十分機能を果たしている。今後、ロビー以外に自由に使える場・飲食可能な場を広げたり充電設備を設置する為に条例改正や新たな事業を起こす必要がある為、慎重に検討する必要がある。

町長 (3) 本町には21力所の公園があり日程は未定だが都市計画マスタープランのアンケートを参考に計画的に進める。



清水町の魅力をより知って
もらう為に出来る事とは

町長 情報発信の工夫し、さらなる努力を重ねていく

問 例えば、地元の情報発信の工夫し、さらなる努力を重ねていく

町長 町の魅力として、子ども園や学校の給食の写真を町ホームページに掲載したり、町内で活躍する方に焦点を当てた情報発信もこれから検討していく。